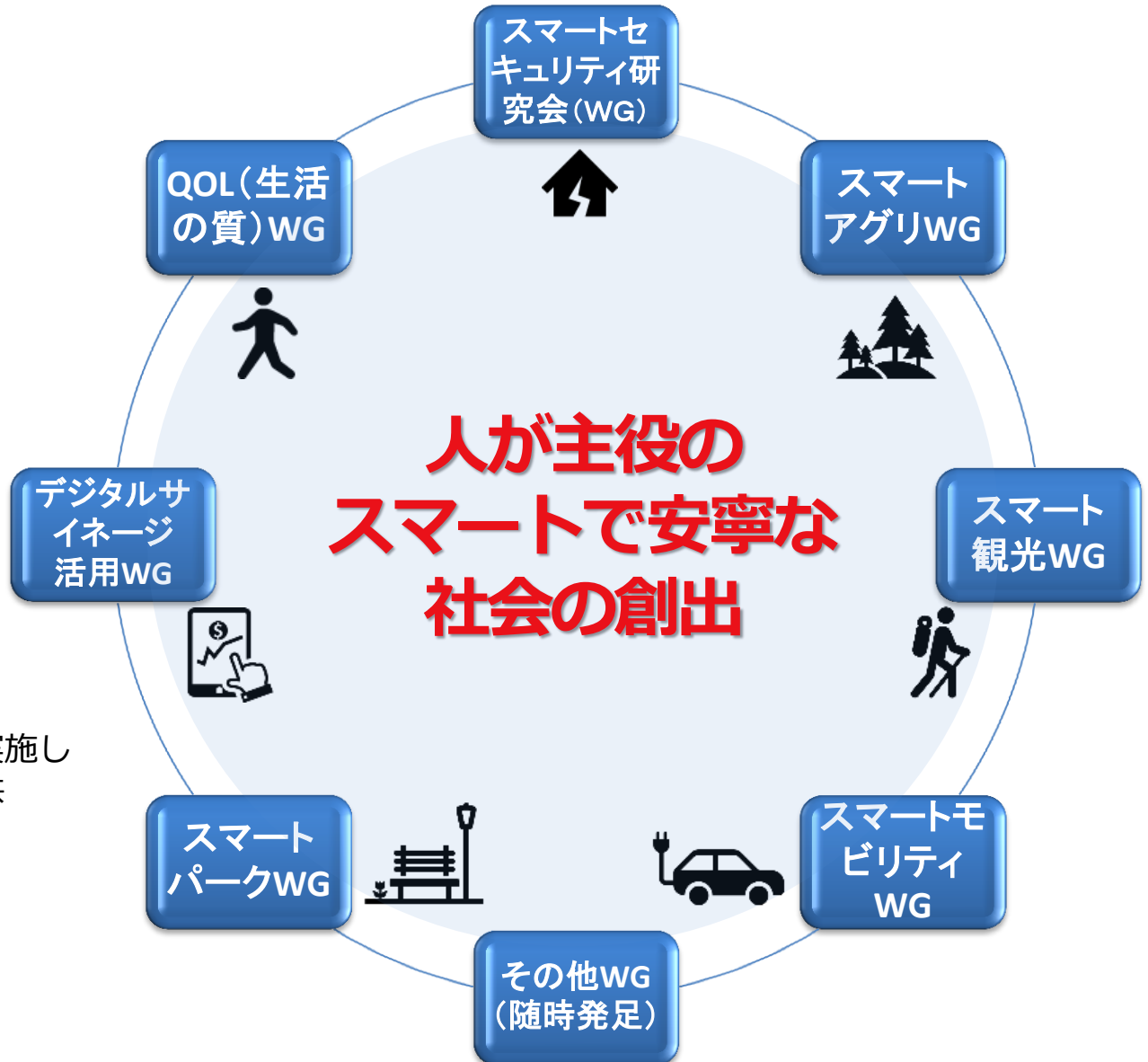


課題別ワーキンググループ設置

人が主役の スマートで安寧な 社会の創出



- 会員は興味関心のあるWGに参加可能 (※複数可)
- WG内で様々なプロジェクトを立ち上げ可能
- 必要に応じて、実証実験や補助金獲得を支援
- 事業開発に向け、他企業や自治体、研究機関等とのアライアンス創出を支援
- 各WGの活動は報告会などを実施しビジネスマッチング機会を提供



<目指すところ>

人口減少・高齢化が深刻化する中、地域住民に安心・安全・快適な交通環境を提供し、豊かで持続可能なモビリティ社会を実現するため、AIやICT等による新しいモビリティサービスを検討する。

こんな課題を解決したい

○けいはんな学研都市に多数立地する企業、研究施設間の移動をスムーズにしたい

○過疎地域や高齢者の交通問題を解決したい

○京都スタジアム（仮称）の竣工により、想定される交通渋滞や移動問題をなんとかしたい

⋮

例えば、こんな取組を検討

○高齢者等の社会参加を促し、次世代の実装となる自動運転等の実証を行い、スマートな暮らしを実現する、「学研都市型MaaS+」を推進

○京都丹後鉄道沿線地域での地方郊外型MaaS事業におけるQRシステム導入実証

○南山城村における村営バスの再編、自家用有償運送等の導入により交通網を整備する等、過疎地型MaaSを実証

○京都スタジアムに訪れる2万人規模の来場者の心地よい移動サービスを検討

⋮

本日のスマートモビリティWGの進め方

①課題の共有（15分）

亀岡市から交通課題の提供

②シーズの共有（30分）

関連分野の企業からシーズを提供

（ゼンリンデータコム、事故ゼロフォーラム、運輸デジタルビジネス協議会）

③課題別ディスカッション（60分）

- （1）本日の講演に関連するテーマを設定し、6つのグループを編成（地域交通、観光MaaS、データ活用、交通安全・高齢者交通支援、運輸）
- （2）事前に事務局で参加者の業種に関連するグループに振り分け
- （3）各グループでディスカッション（事務局からファシリテーター1名）

＜本日のゴール＞

テーマ対して、参加者の知見やシーズを持ち寄り、新しいアイデアを提案

- （4）グループ発表（※議論の内容を簡単に共有） } 7分
- （5）仲山副市長講評 } 3分



50分